

## キャリア教育における系統的な縦と横のつながり

— 縦系統(中学-高校-大学) 横系統(地域-ハローワーク-サポートステーション) —

谷 添 秀 樹 (佐賀学園高等学校)

### 【はじめに】

佐賀県佐賀市の中央に位置する佐賀学園高等学校は、「産業界の第一線に貢献する人材の育成」を建学の精神とし、1958年(昭和33年)4月、佐賀実業高等学校として創立され、今年55年目を迎える。この間の卒業生は2万人を超え、創造・躍動・貢献を校訓とした文武両道の学校を定着させるべく生徒と職員が一体となって奮闘努力している。母体が経理専門学校であったことから商業系の学校としてスタートしたが、多様化する生徒に対して、1973年(昭和48年)に普通科を新設して、教育内容の拡充を図り佐賀学園高等学校(普通科・成穎高等部(特進)・商業科・情報処理科)と校名を変更し現在に至る。

### 【本実践研究の背景】

#### (1) 平成23年～平成24年度

進路保障を100%確定していた時代から約10年。一昨年3月の卒業生(231名)の進路未定者は20名(進学浪人含)=8.7%に及び、昨年3月卒業生《281名》の進路未決定者は22名(進学浪人含)=7.8%という事態に陥っている。企業の採用担当者からは、理由の一つに「入社試験の成績が合格点に達していない」という報告があっている。基礎学力を向上させることが何より為すべき命題であるし、基礎学力がついていないため進路未決定になっているのだろうが、この件に関しては、ベネッセのマナトレを実施することによって全職員の協力体制を確立し、基礎学力の向上に尽力している。

平成23年4月本校の校務分掌にキャリア教育推進部が設置され、高校3年間に取り組むべき課題を《キャリア教育(進路保障および学力向上を含めて)》としたが、その年の就職者の中で、就職はしたものの4月入社後の5月末で3名もの卒業生が離職している。これらのキャリア教育(進路指導も含む)に関するミスマッチや進路決定ができていない生徒たちに、早い時期からキャリア教育を推進し、勤労観・職業観を育成し、卒業後の生き方・あり方をきちんと理解させないと、今後もまた同様の進路未決定のままの卒業生、あるいは、就職後早期の離職者が存在するという結果が起こる可能性がある。ここに、進路保障と発達段階に応じたキャリア教育の推進が求められた。

#### (2) 平成24年～平成25年度

平成24年4月に一般財団法人日本私学教育研究所委託研究員の命を受け、一年間、キャリア教育に

関する調査研究ができるようになり、[佐賀県内の公・私立中学高等学校のキャリア教育に関するアンケート調査]を実施し、佐賀市内の私学5校により[私学キャリア教育研究会]を立ち上げ、佐賀県くらし環境本部こども未来課より、私学担当の係長、副主査様にもこの研究会に参加していただき、御助言ご協力をしていただいた。また、教育振興基本計画（平成20年7月1日閣議決定）で、今後5年間に総合的かつ計画的に取り組むべき施策に・キャリア教育や専門高校における職業教育の推進が掲げられている。今年（平成25年6月）がその5年間の完了の年月である。

### 【アンケート調査結果】（佐賀県内の公・私立中学校、高等学校および本校職員と1年生）

#### ◎キャリア教育推進のための ① — 縦と横のつながり —

公立中学校におけるキャリア教育アンケート調査 佐賀県内93校中 回答校65校

私立中学校におけるキャリア教育アンケート調査 佐賀県内6校中 回答校6校

質問項目	公立学校数	%	私立学校数	%
キャリア教育の年間計画があるか	36校/65校	56.4	3校/6校	60.0
キャリア教育の専門部があるか	16校/65校	24.6	1校/6校	20.0
教師の理解度を%で表すと	/65校	66.7	/6校	48.3
キャリアカウンセラー等が導入されているか	1校/65校	1.5	0校/6校	0.0
小学校との連携があるか	13校/65校	20.0	0校/6校	0.0
高校との連携があるか	14校/65校	21.5	3校/6校	60.0
その他（高校説明会など）	78校/93校	83.9		

#### ◎キャリア教育推進のための ② — 縦と横のつながり —

公立中学校における就業体験アンケート調査 佐賀県内93校中 回答校65校

私立中学校における就業体験アンケート調査 佐賀県内6校中 回答校6校

質問項目	公立学校数	%	私立学校数	%
就業体験（インターンシップ）を実施してるか	65校/65校	100.0	3校/6校	50.0
各事業所に何人、就業体験に行ったか	5711人/1548所	2.9人/所	74人/32所	2.3人/所
小学校との連携があるか	5校/65校	7.7	0校/6校	0.0
高校との連携があるか	1校/65校	1.5	4校/6校	66.7
教育委員会などの外部教育力を活用してるか	16校/65校	24.6	0校/6校	0.0
ハローワークなど関係諸機関と連携してるか	9校/65校	13.9	0校/6校	0.0
その他 ・ 職業レディネステスト ・ 職業人インタビュー ・ 高校の就業体験など				

#### ◎キャリア教育推進のための ③ — 縦と横のつながり —

公立高等学校におけるキャリア教育アンケート調査 佐賀県内36校中 回答校28校

私立高等学校におけるキャリア教育アンケート調査 佐賀県内9校中 回答校8校

質問項目	公立学校数	%	私立学校数	%
キャリア教育の年間計画があるか	20校/28校	56.4	4校/8校	50.0
キャリア教育の専門部があるか	10校/28校	24.6	2校/8校	25.0
教師の理解度を%で表すと	/28校	58.2	/8校	68.1
キャリアカウンセラー等が導入されているか	0校/28校	0.0	0校/8校	0.0
中学校との連携があるか	4校/28校	14.3	2校/8校	25.0
大学・短大・専門学校との連携があるか	15校/28校	53.4	5校/8校	62.5

## ◎キャリア教育推進のための ④ — 縦と横のつながり —

公立高等学校における就業体験アンケート調査 佐賀県内36校中 回答校28校

私立高等学校における就業体験アンケート調査 佐賀県内9校中 回答校8校

質問項目	公立学校数	%	私立学校数	%
就業体験(インターンシップ)を実施してるか	19校/28校	67.9	6校/8校	75.0
各事業所に何人、就業体験に行ったか。	2583人/1091所	2.4人/所	840人/434所	1.9人/所
中学校との連携があるか。	0校/28校	0.0	0校/8校	0.0
大学・短大・専門学校との連携があるか	3校/28校	10.7	1校/8校	12.5
教育委員会などの外部教育力を活用しているか	5校/28校	17.9	0校/8校	0.0
ハローワークなどの関係諸機関と連携してるか	2校/28校	7.1	3校/8校	37.5
その他 ・キャリア教育支援事業 ・ものづくり技能協会 ・企業研究会 ・事業所幹旋など				

## ◎キャリア教育推進のための ⑤ — 本校の内部事情 —

本校職員 における キャリア教育アンケート調査 有効数45名の%

質問項目	している	だいたいしている	あまりしていない
キャリア教育を理解しているか	51.1	46.7	2.2
授業とキャリア教育を関連させているか	33.3	60.0	6.7
インターンシップを理解しているか	71.1	24.4	4.4
進学のシステムが理解できているか	71.7	20.0	2.2
就職のシステムが理解できているか	66.7	28.9	6.7

県内外73中学校からの出身者

本校1年生 における キャリア教育アンケート調査 有効数290名の%

質問項目	はい	いいえ	よくわからない
キャリア教育を受けたか	49.0	5.5	45.5
就業体験をしたか	88.6	11.4	

本校1年生 県内外73中学校《その他の項目(何を感じたか)》 有効数290名の%

・職業観を理解できた	22.1
・職業人を理解できた	13.9
・親の大切さがわかった	11.3
・きつかった	19.1
・面白かった	18.7
・もう少し体験したかった	12.4
・学校がよかった	2.5

## 【私学キャリア教育研究会について】

## 《全5回実施》

- (1) 各校におけるキャリア教育の現状と課題
- (2) インターンシップ、職業体験
- (3) 地域—ヤングハローワーク等
- (4) 外部教育力、外部事業所等の協力協同
- (5) フリーター、ニート、不登校および学校中退に関する研究と支援



私学キャリア教育研究会

について県内公私立中学高等学校のアンケート調査結果を照らし合わせ研究会を行った。

- ① CDA などのキャリアカウンセラー等の配置は、ほぼ皆無に等しいので、現場の教師における進路指導およびキャリアカウンセリングのスキルアップや研修会が必要。生徒一人ひとりが未来の自分に出会うためのキャリア教育が必要である。
- ② 2013年、新学習指導要領移行に向けてキャリア教育を整備する。
- ③ 各教科間におけるキャリア教育の連携と、キャリアを意識した各教科内での授業の展開。
- ④ 学びの醍醐味に触れ、学習過程における知的興奮と物事を理解したときの達成感を味わえるような指導を展開する。

#### 《中学校—高校—大学等への縦の連携を深めるために》

- ① 中学校時代のデータを提供してもらおう。学習・部活動・生活状況などのポートフォリオ。
- ② 大学、短大、専門学校等への生徒の情報提供や連携事業の拡大。

#### 《外部教育力、関係諸機関の協力を仰ぐ》

- ① ヤングハローワーク、サポートステーション、県教育委員会、県くらし環境本部こども未来課、商工会議所、(株)ベネッセ、リクルート等

### 【おわりに】

各学校段階ではそれぞれ熱心にキャリア教育をしてきたつもりでも、人生や生き方、将来の職業や仕事など、生徒一人一人の「一生」を念頭に置いたキャリアデザインをしてこなかったために、高校卒業後（高校中退も含む）、高等教育機関に進学せずまた企業に就職するわけでもない人（浪人を含む）がどの都道府県でも存在する。その彼ら、彼女らの多くがフリーターやニート予備軍であるとされている。中学3年の卒業時、担任教諭はこの中から3年後誰がフリーターやニート予備軍になるか、思っていたらどうか。

我々が生徒の前に立つ時は細部にわたる配慮をしつつ、学習の進展が、気付かずにいた学習の意義の発見へとつながり、さらなる学習へと発展を遂げるよう、教壇に立つ。

#### 《参考文献および参考資料、協力校》

- ・「HIGHT SCHOOL TIMES」平成24年4月
- ・リクルート「キャリアガイダンス」No.35, No.40
- ・文部科学省「高等学校キャリア教育の手引き」平成23年11月
- ・文部科学省、国立教育政策研究所・生徒指導研究センター「キャリア教育のススメ」
- ・大学新聞、平成24年4月10日
- ・㈱ベネッセコーポレーション・高校事業部
- ・月刊「高校教育」2011年5月、6月、7月 学事出版
- ・中央教育審議会答申、平成20年1月17日、平成23年1月31日
- ・佐賀県、キャリア教育アシストキャラバン研修資料
- ・県内公立中学校65校、私立中学校6校、公立高校28校、私立高校8校のキャリア担当者、進路指導部長、研究主任、教務主任等の先生方、また、私学「キャリア教育研究会」研究校佐賀清和、龍谷、佐賀女子、北陵、および佐賀県くらし環境本部子供未来課の皆様